



教育相談だより

令和3年12月24日 発行
福島県特別支援教育センター
第1号 作成：教育相談係

福島県特別支援教育センターでは、幼稚園、保育所、認定こども園や小、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に通う幼児児童生徒の教育相談を実施しています。教育相談を実施する上で、私たちが大切にしてきたことをお伝えし、教育現場の方に役立ててもらえればと考え、教育相談だよりを作成しました。月1回を目安にホームページに掲載していきますので、ぜひ、ご覧ください。

今月のテーマ 「不登校の児童生徒の理解と対応」

12月3日（金）、令和3年度第36回福島県特別支援教育センター研究発表会を開催しました。今年度は、オンラインの配信も試み、140名超の方に会場やオンラインにて御参加いただきました。発表会において、これまで教育相談係が取り組んできた内容から、今年度は不登校をテーマに「実践報告」として発表しました。今回は、その内容をまとめてお伝えします。

【本人について】

本センターに不登校について教育相談に来ているお子さんの多くが、「学校へいかなければならない。」と思い、学校に行けていない状況に悩んで過ごしています。学業や友人関係など、不登校の理由はさまざまです。傷つくことに敏感になっている子もいます。勇気を出して登校するものの、困難な場面は生じてしまい、さらに学校に行けなくなってしまうということがあります。



【保護者について】

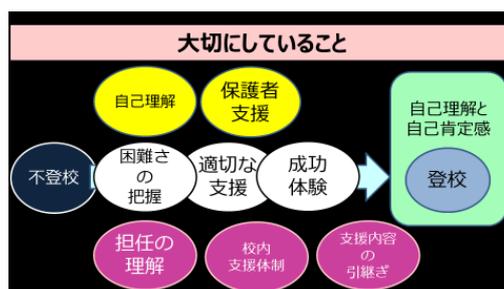
学校へ行かずに社会人になった経験のある方は少ないため、子どもが不登校になってしまうと、社会との接点がなくなってしまう、ひきこもりになるように感じる方が多いようです。そのため、「とにかく学校へは行かせなければ。」と焦ってしまうこともあるようです。

【担任・学校について】

児童生徒の思いに寄り添いたいと考えている一方で、児童生徒が不登校になった背景要因に気づかずに、登校を促すアプローチをすることがあります。

【本センター相談の取組】

- ①児童生徒が安心して話せるための関係づくりと本人の自己理解を大切にしています。
 - ・相談時に、本人の意思の確認を丁寧に行う。
 - ・相談担当者が本人の意識的な行動を認める。
- ②保護者を支えることを大切にしています。
 - ・不登校の背景要因を整理し、支援を考える。
 - ・本人の成長や状況を確認する。
 - ・保護者の努力を確認し、支援策を確認する。
- ③学校の要請に応じて連携します。
 - ・対象児童生徒の不登校の背景要因を共有する。
 - ・支援策の共有をする。



登校だけがゴールではない。

大切なのは、本人の自己理解をすすめて、どう行動すればよいかを認識し、自己肯定感を高めること。

今後も、教育相談を通して大切にしていきたいことを、お知らせしていきます。今年度は、以下のテーマでお知らせする予定です。

1月・学校における支援について 2月・学びの場について 3月・教育相談について